令和６年度　伊南福祉会本部事業報告

1. 法人全体の経営状況

（１）収支の状況

令和６年度はコロナ禍で落ち込んだ稼働率の回復に取り組み、事業活動による収入は４．３％、約７千万円の増加となった。逆に事業活動による支出は、介護職員処遇改善など必要な対応は行ったものの経費削減や効率化により２．０％の増にとどめ、事業活動による収支は３，８７０万円改善することができた。

この結果、施設整備、その他活動による収支を合わせた全体で４，７６０万円改善し，２，８３０万円の資金収支差額を出すことができた。

各施設ともに稼働率が前年度を上回ったことが、介護報酬、生活保護給付基準の改訂と併せて収益増の要因となった。また人材確保コストの抑制に努めるなどの対策が経費削減に結び付くこととなった。

（２）課題と対策

しかし、経営改善努力が成果に表れていない事業や、稼働率向上が限界点に近くなっている事業も多く、令和７年度では、これらの課題を踏まえた、より以上の経営改善が必要となっている。

このため、令和７年度は以下の点を重要課題として取り組みを行う。

① 引き続き稼働率の向上を最大の目標として取り組む。
② 業務効率化を図るための事業見直しやシステム活用への取り組みを行う。
③ 職員確保に向けて、処遇改善の実施、ハラスメント防止等の労働環境整備に取り組むと同時に、人件費を適正な水準に納めるよう努める。

また、収支改善以外では危機管理も重要であり、自然災害や感染症などのリスクに備えるため対応力を高め、法人の社会的信用を傷つけることの無いようにコンプライアンス順守の意識醸成に努めていく。

2. 本部運営

課題と目標を明確にして各施設の事業運営を指導するなど、以下の法人全体の取り組みを行いました。

① 経営分析と対策の実施
毎月の法人経営会議で、経営コンサルタントの助言を得て、経営指標、経営課題や対応策を確認した。

② 持続可能で働きやすい職場環境づくり
顧問弁護士と契約し、危機管理対策、ハラスメント対策、適切な労務管理などに努め、職場環境の整備を進めた。

③ 人材確保・人材育成の取り組み
ハローワーク、職員からの紹介など、効果的かつ低コストの人材確保を目指した採用を進めた。

令和６年度　観成園事業報告

観成園は長期入所定員１１０人、短期入所定員１０人の全室個室ユニット型の特別養護老人ホームであり、「安心・笑顔・その人らしさ」を理念とした介護事業を進めています。

（１）利用状況

長期入所の稼動率（定員に対する入所者数の割合）は９６．７％（前年度９６．１％)、短期入所は８９．５％（前年度９０．０％）で、長期入所においては前年度実績を上回りましたが、短期入所では、園内で新型コロナ感染症が発生したことにより入所の手控えがあり稼働率は下回りました。平均介護度については３．６と前年度に比べ０．１上がりました。

（２）収支状況

収入面では、総収入額が６億１，３１０万円、前年度比２，０８０万円、３．５％の増となりました。増収となった主な要因として、介護報酬改定や長期入所の稼働率上昇等によるものです。

支出面では、総支出額は６億４，０４３万円で、前年度比３，８４０万円、６．４％の増となりました。

主な支出について、物価高騰により前年度比、介護用品費９６万円、水道光熱費１０２万円増となりました。人材紹介会社への手数料支出はなく手数料３２６万円減となりました。投資的な部分では、厨房の冷凍冷蔵庫等を更新しました。

また、拠点区分間の資金の融通を行い拠点区分間長期貸付金支出がありました。

人件費は、職員数は減少したものの、定期昇給や処遇改善加算により前年度比１．１％の増、人件費率は６５．０％（前年度６６．４％）でした。

以上の結果、収支全体では拠点区分間貸付金支出の影響で当期資金収支差額では２，７３２万円余のマイナスとなりました。当期活動増減差額においては８１０万円の黒字となりました。

今後も健全で持続可能な施設運営に向けた経営努力を続けるとともに、入居者が安心して家庭生活の延長線上の暮らしができるよう質の高い介護サービスの提供に努めて参ります。

令和６年度フラワーハイツ事業報告

フラワーハイツは、老人保健施設であり、近年、自立支援、重度化防止が介護保険の柱とされ、食事(栄養)管理、リハビリ、口腔ケアを一体的に提供し健康寿命を意識しての支援体制が求められています。令和５年５月には、新型コロナ感染症は５類変更になりましたが、高齢者施設では以前とほぼ同じような対応が求められています。直接面会の再開、コロナ下での行事、施設内の業務などの制限を少しずつ緩和し以前と同じような状態への移行に取り組んできました。

（１）利用状況

利用状況におきましては、新型コロナの感染者は見られましたが大きなクラスターになることなく１年を経過することができました。この結果利用者数は、令和５年度比で入所サービスでは０．８％増（長期入所６．２％減、短期入所６０．０％増)、通所リハビリ８．４％増、訪問リハビリ２．２％増、障害者サービス５１．１％増。居宅介護支援事業は担当件数が１３．５％増となりました。

（２）収支状況

事業活動収入は、６億２，８７９万円、令和５年度比５．４％増となっています。内訳としては入所系サービスが介護報酬改定により３．８％増収、通所リハビリは利用者増により７．２％増収。訪問リハビリは利用者増により１３．１％増収、居宅介護支援事業は、特定事業所加算算定により２５．８％増収。

事業活動支出は２．０％増の６億１，９１２万円となりました。内訳は、人件費５．４％増の４億５，４９０万円、事業費は経費削減に努め３．０％減。事務費は１１．４％減。内訳としては修繕費が、４００万円減、手数料（人材紹介手数料）が４９０万円減となっています。

結果として拠点区分間の借入金を除いた当期資金収支差額は、マイナス２１３万円で令和５年度比で２，８００万円余の改善になりました。

令和６年度は介護報酬の１．５９％のプラス改訂で、令和５年度より増収となりましたが、令和７年度は、引き続き利用者の数的管理、業務の効率化により収益の確保に努めます。また、人材の確保定着を図り老健施設としての役割機能を果たせるように取り組んでいきます。

令和６年度　順天寮事業報告

１．重点項目

生活保護受給者で居宅生活をおくることが困難な人が、安心して暮らしながら自立に向けた訓練を行う施設である順天寮では、令和６年度は重点項目についてプロジェクトチームを立ち上げ、対応してきました。

(1) 健全な経営継続

① 年間を通じた入所率の確保

(2) 改築計画

① 地域福祉に貢献し、長期経営が可能な付帯事業の検討

② 他法人の救護施設等の見学視察（７施設）の実施

③ 資金計画についての検討

(3) 人材確保と育成

① 職員を育成できる環境（育成プログラム）の整備を行う

② サービスの質の向上（グループ単位での支援強化）

③ 5S 運動による生産性の向上

(4) 日中活動プロジェクト

① 自律支援プログラムの充実を図る

② 心身機能維持のプログラムの充実を図る

③ 余暇・リラクゼーションプログラムの充実を図る

２．利用状況

年間平均利用者数 64.7 人、利用率 107.8％と昨年対比 0.2％の微減となりましたが、高い稼働率を維持しています。退所の特徴としては、高齢で長期入所の方の死亡や病院・介護施設への施設替えに加え、在宅やグループホーム等自立に向けた退所も多く、地域移行を推進することができました。

入所では、精神障害による自立生活困難の方や、近い将来、養護老人ホームへの措置入所を見据えた方等が多い傾向にありました。

３．収支

事業活動収益２億 9000 万円、昨年度比 105％となり今年度 1,000 万円の施設整備積立金（積立累計 8,000 万円）を行ったうえで 1,100 万円の当期資金収支差額を計上することができました。

令和７年度は、改築の基本計画策定と人材育成（業務の効率化と生産性の向上）に重点を置いて組織・施設の機能強化を図りながら、地域福祉の向上に努めてまいります。

令和６年度　指定共同生活援助事業所南天　事業報告

グループホーム事業は、救護施設順天寮の地域移行事業として、日中は主に順天寮の通所事業を利用し、夜間はアパートタイプの個室で居住し共有スペースで世話人が作った夕食を提供している障害福祉サービスとなります。平成29年８月より定員４名の「南天」から開始し、令和２年度に「ハレルヤ」を開所して現在２棟８名定員体制で運営しています。

１．利用状況

昨年度は８月から定員を１人増やし８名となりました。８月に１名の利用者が入院中に死亡されましたが、12月に順天寮入所者が居宅訓練を経て新規利用を開始しています。また飲酒による病状悪化での入院者もあり、年間の空所日数が252日、稼働率90.7%となりました。

順天寮利用者が、地域移行でグループホームを希望されるニーズは、今後も増加する見込みでありますが、利用者の加齢に伴うサービス量増加への対応も今後の課題となっています。

２．収支状況

収入は、空所による減収もありましたが、障害サービス給付費のみで昨年度比は101%の微増となりました。障害処遇改善加算の取得と相談支援計画作成費用の件数が増えたこともあり、各種補助金はありませんでしたが、事業収入は、昨年比99%と昨年並みを維持できました。

支出は、世話人の入替えによる人件費増加、また、物価上昇により給食費、水光熱費、委託料とそれぞれ増加しております。

令和６年度の当期資金収支差額は昨年より875,037円減少し、666,728円の黒字を計上しております。

世話人会議を定期的に開催し、研修の実施や意見交換を図りながら、より良いサービスが継続できるように取り組んでおります。
障害福祉サービスや困窮者の地域移行支援に関して、他事業者との連携や、地域ニーズの把握を行いながら、将来的には独立採算で事業が成立できるよう模索を続けてまいります。

令和６年度　伊南訪問看護ステーション事業報告

伊南訪問看護ステーションは「生きる喜びをチーム力で支える」をミッションとし、在宅を訪問し看護を提供する「訪問看護」、在宅サービスのマネージメントを行う「居宅介護支援」、医療的依存度の高い障害児者や高齢者の通う「ナーシングデイ」の３事業を展開しています。

（１）　利用者状況

訪問看護は令和６年度訪問件数９，２１１件。前年度比４％減。人員不足により新規依頼３７人を断っていることが件数減少の原因です。在宅看取り件数は前年度より７％増の３２件となっています。

居宅介護支援の給付件数は前年度と同様です。

すまいるは医療的ケアを必要とする高齢者・障害児・者の方が利用の対象となりますが、稼働率は前年度より１２．３％増の９０．７％。令和６年度は収益率が高い障がい福祉サービスに力を入れ、対象利用者数が３０％増えています。

（２）　収支状況

総収入額１億４，２４７万円、前年度比６８２万円の増で５％の増、総支出額　１億２，７９９万円、前年度比３６万円の増で０．３％となりました。

収支全体では当期資金収支差額で１，４４７万円の黒字です。

黒字となった要因は主に２点が挙げられます。１つ目は訪問看護における総年間訪問件数は減少したものの、看護師一人当たりの年間訪問件数は令和５年度８９２件から令和６年には８％増の９５９件となり、看護師一人当たりの収入が増加したことです。２つ目は、すまいるにおいて１人当たりの報酬が高い障がい児福祉に注力した結果、収益率が向上し、増収につながりました。

（３）　今後の課題

訪問看護に対する地域のニーズは引き続き大きく、これに対応する職員（令和６年度末　２３名）を維持するために、人材確保に向けて業務体制、処遇の見直しを検討する必要があります。